



賢く選べ!



とれる品種・売れる品種

スイカ・メロン・ブルーベリー 編

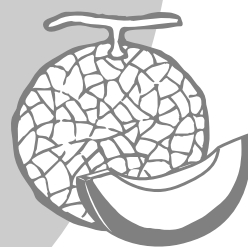
多収性? 耐病性? それとも買い手の需要? スーパー読者の「用途別」品種選び



品種名を表に出して販売するスーパーやレストランが増えている。今や品種はマーケットサイドまでもが意識する、一つの「価値」となった。読者に今年選んだ品種とその理由を聞き、カタログでは得られない「ナマの声」をまとめた。品種選びの参考にして欲しい。

※□内の説明はメーカーが紹介している情報などです。なお、産地や作型等の違いにより、読者のコメントには差があります。

取材・文/依田憲枝



スイカ

歯触りの良いシャリ感以上により甘いものが求められているようだ。縞皮・大玉・赤肉種が主流だが、小家族で食べられる小玉や、果皮など外観の違い品種など多様化している。

大玉・赤肉種

縞王マックスKE

大和農園

早い作型に対応できる。低温着果性が向上。

●約20年間作っている品種。肥大性に優れる。中心部と周辺部の甘さの差が小さい。うるみ果が発生しにくい。糖度が上がらない。(西山氏)

大玉・赤肉種

縞無双

神田育種農場

外観整一性。肉質やや硬め。糖度12度以上で、中心部と周辺部の糖度差小さい。

●近年は肉質が硬めの品種が多いが、これは硬さが気にならない。糖度が高いというみ果になる傾向があるが、この品種は比較的発生しにくい。ただし、肥大性が悪い。後半の樹勢が強く、二次肥大や空洞果が起こりやすい。(西山氏)

大玉・赤肉種

金時

島崎種苗農事

形は正円に近い。程良い硬さ。

●出荷は7月上旬～7月25日頃ま

で。肉質はサラツとして、口の中で崩れるほど柔らかい。ただし8月になると柔らかすぎる。(川名氏)

大玉・赤肉種

天竜2号

島崎種苗農事

形はやや面長。肉質は柔らかい。

●出荷は7月下旬～8月上旬。金時より少し肉質が硬い。高温期に向いている品種。(川名氏)

大玉・赤肉種

祭はやし777

萩原農場

空洞果の発生が少なく上物率が高い。肉質は適度なしまり。

●うるみ果が発生しやすい。樹勢が強すぎる。着果性が低く、裂果の発生など全般的に作りにくい。栽培のコントロールがなかなか難しく、作るのをやめました。(西山氏)

大玉・赤肉種

スーパーエース

萩原農場

豊円型で変形果少なく形状良い。肉質は緻密でシャリ感強い。

●低温寡日照下の着果性が良い。昔

ながらのスイカの食味でお客様から支持された品種。味は問題ないが、玉の形が扁平ぎみで、8月に入ると果皮の色が薄くなるので作るのをやめました。
(川名氏)

大玉・黒皮種

タヒチ(でんすけ)

サカタのタネ

着果性に優れ、栽培容易で多収。
糖度11〜12度で安定。

●やや硬めでベタベタしないシャリ感。日持ちが良いが、店頭に長く置かれてお客様が食べるまでの時間が長くなると、鮮度や食感がクレームの対象になることも。糖度をのせるために収量を制限している。黒皮でキズが目立ちやすいので、取扱いに非常に気を遣う。栽培面積は少ないが、価格優位性で北海道のスイカを牽引する品種。通常のスイカの約10倍の値段がつくので、収量は少ないが収益が出る。7月後半はギフトが

約3分の1を占める。
(高橋氏)

※でんすけ 昭和59年に当麻町が一村逸品運動として導入。平成元年に商標登録。

小玉・赤肉種

味のひみつ

松井農園

肉質は大玉に近く、シャリ感に富む。糖度は12度で安定。

●通常の小玉スイカはシャリ感があまりでないが、これは肉質が硬くシャリ感があり、味も大玉に近い。炭疽病や褐斑病になりやすい。(F氏)

小玉・赤肉種

マダーボール

みかど育種農場

楕円形。繊維は少なく適度にしまる。日持ち性や輸送性に優れる。

●小サイズへのニーズと、大玉は重くて作業が大変なので小玉に切り替えた。他に比べて糖度が高く肉質が大玉に近い。ただし裂果しやすく、炭疽病など病気に弱い。(島田氏)

「スイカ」のお話をうかがった読者

①氏名 ②住所 ③栽培面積
④その他の栽培作物

①西山直司
②愛知県渥美郡田原町
③スイカ3ha
④ダイコン

①川名 満
②神奈川県三浦市
③スイカ130a
④ダイコン、キャベツ

①島田農園 島田作衛
②千葉県館山市
③スイカ80a
④ブロッコリー、水稻

①高橋広幸
②北海道上川郡当麻町
③スイカ26.4a
④キュウリ、トウモロコシ

①匿名(文中はF氏)
②石川県
③スイカ148a
④サツマイモ



●6月下旬〜7月上旬に出荷。甘くて舌触りが良く、万人向けの味。共同出荷している品種。
(川名氏)

小玉・黄肉種

おおつり2号

トーホク

繊維が少なく、舌触りが良い。
平均糖度13度。



品質の評価は食感のなめらかさや甘さはもちろんだが、ネットの張りが高級感を左右する重要な要素になる。果色やネットがバラエティに富むほか、日持ちもポイントになりそう。

アールス系

四万十の春秋Ⅱ

高知前川種苗

ネットの盛り上がりが良い。果肉は厚く棚持ちが良い。

●11月中旬頃に収穫。果実の硬化期に鈍感で、締まりすぎず緩みすぎず、ネットが作りやすい。また肥大しやすい。
(森本氏)

アールス系

雅秋冬系

横浜植木

果形の安定度が高い。ネットは盛り上がり良い。糖度14度以上。

●11月中旬〜12月中旬に収穫。静岡

●6月下旬〜7月上旬に出荷。サラサラして口の中で崩れるほど柔らかく、昔ながらのスイカらしい食感。酸味はあるが、それを上回る果糖の甘さがあって味のバランスが良く、味も濃い。小玉は大玉に比べて収穫の判断が難しい。こまめに収穫しなければならず、余裕が少なく忙しい。重量で単価が付けられると厳しい。
(川名氏)

●6月下旬〜7月上旬に出荷。サラサラして口の中で崩れるほど柔らかく、昔ながらのスイカらしい食感。酸味はあるが、それを上回る果糖の甘さがあって味のバランスが良く、味も濃い。小玉は大玉に比べて収穫の判断が難しい。こまめに収穫しなければならず、余裕が少なく忙しい。重量で単価が付けられると厳しい。
(川名氏)

のマスクメロンに近い品質ではないか。高知県では評価されています。肉質が良く棚持ちも良い。果実硬化に敏感で、締まりやすく割れやすい。縦ネットが発現し始める頃に雨続きで天候不良だと裂果してしまうことがある。
(森本氏)

アールス系

クレスト春秋

横浜植木

糖度14〜15度、日持ちが良い。

●温度管理などによって、果梗が長くなりすぎるような気がする。見栄えが悪くなるので作るのをやめました。
(O氏)

ベネチア

八江農芸

ネットは開花後12日頃にあり、25日を経過する頃には発現がほぼ終了する。

●契約栽培で、こちらから積極的に提案した品種。6月10日頃～7月15日頃まで収穫。ネット発現が「雅」や「クレスト」に比べて2～3日早く、12～13日目にでそろい、肥大期間が長い。成熟日数を60～65日とり、糖度14～15度でまろやかな仕上がりにもっていく。(O氏)

肥後グリーン

松井農園

●5月下旬～6月中旬に出荷。立体栽培で玉数を稼ぐことができ、ある程度は糖度も高い。

●5月下旬～6月中旬に出荷。立体栽培で玉数を稼ぐことができ、ある程度は糖度も高い。

アールス系

程度の収量が見込める。ネットの張り方にバラツキがあるので個数を制限。2本仕立て、1つる1果にする。ネットの張りも良く玉も大きくなる。ただし大玉でも単価が安いので、収入の確保には量をとる必要がある。果皮が灰白色のアールス系に比べ、果皮が緑色の外観は評価がやや低いものの、糖度以上に食味が良く、舌触りが良い。関西から西、九州では人気があります。(中田氏)

アンデス

サカタのタネ

●5月に出荷。品種改良が進み、現在作っているのはアンデス5号。果肉がしっかりとって棚持ちが良くなり、その点のクレームは少なくなったと思う。肥大性も良い。ネットの出し方に個人差がある。(Y氏)

ネット系

果皮は緑色がやや濃く、ネットは密。糖度13～15度で安定。

ルピアレッド

みかど育種農場

●4月に出荷。ネットの仕上がりが良い。果肉が柔らかく、なめらか。ただし果肉が薄く、食べられるところが少ない。(Y氏)

クインシー

横浜植木

●赤肉メロンがあまり出回っていない頃に登場し、アンデスから切り替えた。他の赤肉系に比べ形が丸くネットの張りが良い。5月に出荷、6月になると他の品種が出回り価格が落ちることや、作型の都合で肥後

ネット系

球形～やや扁平球、果肉はサーモンピンクで厚い。糖度15～16度。日持ちが良い。

グリーンに切り替えた。(中田氏) ●市場でも定番化している品種。外観の要求はあまり厳しくない。手間をかければ病気や農薬散布の回数を減らすことができる。(Y氏)

R113

大学農園

●9月出荷。富良野のメイン品種。人気が高く価格も高い。柿のような食感で、なめらかで繊維質を感じない。糖度は15～17度。収穫まで約60日かかり、枝葉が弱くなる危険性がある。病気にかかりやすい時期の栽培なので、9月に発生しやすいうどんこ病に弱い。また成熟日数55日の「R113U」を8月中旬まで出荷。日持ちはするが、果肉が荒く繊維質がやや気になる。(西村氏)

ネット系

肉質は硬め。果肉は厚く、赤色が濃くて果皮近くまで色がしっかりとついている。



ブルーベリー

ブルーター

●樹勢が弱い。甘みが強く、味が良いのが喜ばれているようです。同じく極早生品種の「アリーブルー」より味は良いかも。(M氏)

日本では主に北部ハイブッシュ系とラビットアイ系を栽培。加工利用範囲が広く、生食の他に加工品販売や観光園を視野に入れている生産者もいる。

北部ハイブッシュ

耐寒性に優れ、収量が多い品種。

●樹勢が弱い。甘みが強く、味が良いのが喜ばれているようです。同じく極早生品種の「アリーブルー」より味は良いかも。(M氏)

「メロン」のお話を うかがった読者

- ①氏名
- ②住所
- ③栽培面積
- ④その他の栽培作物



- ①中田保孝
- ②熊本県八代郡鏡町
- ③メロン102a
- ④水稻、トマト

- ①西村昭教
- ②北海道空知郡上富良野町
- ③メロン70a
- ④水稻、大豆

- ①森本章
- ②高知県土佐市
- ③メロン60a
- ④水稻

- ①匿名(文中はY氏)
- ②茨城県
- ③メロン160a
- ④水稻

- ①匿名(文中はO氏)
- ②愛知県
- ③メロン70a
- ④トマト、水稻

ウエイマウス

北部ハイブッシュ
古くから栽培されている品種。
豊産性で食味良く人気がある。

●7月20日頃が出始め。比較的大粒。早生種で暑くなる前に品質が良い状態で出荷できる。
(鈴木氏)

ブルークロップ

北部ハイブッシュ
世界的にブルーベリーの中心品種。生産性が安定。

●8月に入ってから収穫。大きさは1円玉くらい。味の評価も良い。ブルーベリーは栽培管理が比較的容易だが、収穫の手間がかかる。大粒品種への要望があるので、今後栽培を考えています。「チャンドラー」という品種が500円玉大になると聞いています。(鈴木氏)

エリオット

北部ハイブッシュ
晩生種。果肉は硬く熟期が揃い、機械収穫も可能。

●7月下旬以降に収穫。樹勢が強く、味も良い。観光摘み取り園を今年開園。12〜13種類、ハイブッシュ中心だが、晩生のラビットアイを増やして開園期間の延長も考えている。ま

た、加工所があるので加工品販売も視野に入れています。
(M氏)

ホームベル

ラビットアイ
収量多い。ブルームが少ないので黒く見える。

●粒が比較的大きく、作りやすい品種。ホームベルを含め4品種作っている。周辺にブルーベリーの生産者がほとんどいないので、地域での差別化を目的に始めました。ジャムも作っていますが、固定客が年々増えています。栽培面積を増やしたので、今後は生食用より加工用が多くなると思う。ブルーベリー狩りも考えています。
(佐野氏)

ブルーマル

ラビットアイ
実が大きくて育てやすく、営利栽培に最適。(販売/オーシャン貿易)

●主力品種。他の品種に比べて粒が大きい。収穫初期には500円玉大になるものもある。ブルーベリーは店頭小売価格が1パック125gで約500円とやや高めなので、100gに価格を下げて購入しやすくすることを検討中。海外の冷凍ものが安価で入ってくるが、生果の新鮮さ

で対抗する。

(小笠原氏)

ワイトウ

ラビットアイ
果実は強い香気で、収量も多くブドウの房のように実をつける。(販売/オーシャン貿易)

●粒の大きさは中くらい。早生種でシーズンの早い時期に収穫。今年は一斉に収穫の時期を迎えたために、摘み取り作業に追われた。施肥などを調整して収穫が平均的に行えるようにしたい。
(小笠原氏)

ラヒ

ラビットアイ
硬い実をつけるので日持ちが良い。(販売/オーシャン貿易)

●サイズはそれほど大きくはないけれど、粒ぞろいが良い。形も良いので、見た目も良いという印象があります。
(小笠原氏)

「ブルーベリー」のお話を
うかがった読者

①氏名 ②住所 ③栽培面積
④その他の栽培作物

①佐野光司
②静岡県富士宮市
③ブルーベリー45a
④イチゴ、水稻、落花生、トマト その他

①清和アグリス(株) 小笠原守
②高知県高知市
③ブルーベリー35a
④トマト その他

①鈴木康正
②北海道余市郡仁木町
③ブルーベリー3a
④水稻、イチゴ

①匿名(文中はM氏)
②福島県
③ブルーベリー20a
④オウトウ、水稻、花卉



500円玉大の
ビッグサイズ!

チャンドラー

通常のブルーベリーは50円玉大だが、チャンドラーはブルーベリーの中で最大の500円玉大。日本導入は2002年とまだ浅いが、輸入販売元のニッポン緑産の櫻井茂隆社長は、「収穫が8月下旬〜8月で、需要が多い夏休み時期と重なり、摘み取りにちょうどいい。後半の主力品種になるのでは」と期待をよせている。酸味が強く、生食向き。また日持ちも良い。

(写真提供:ニッポン緑産)

